



都立高校生の 社会的・職業的自立支援教育 プログラム事業

都立高校におけるキャリア教育の取組を充実させるために、地域教育推進ネットワーク東京都協議会^{*}の会員団体の協力を得て、実施しているものです。

事業の
ねらい

企業や大学、若者支援に関する専門的知識や経験を有するNPO等と連携し、都立高校生が社会や職業について、実感をもって理解しながら、将来社会人・職業人として生活していくために必要な能力等を身に付けることができる教育プログラムを普通科高校を中心に実施する。



この事業は平成25年度から実施し、平成26年度は都立高校51校で、40を超える団体の教育プログラムが活用されています。生徒が主体的・能動的に参加する体験型のプログラムを組み合わせて導入することで、学習意欲やコミュニケーション力の向上とともに、働くことについて具体的に考えるようになったという声が高校から寄せられています。

次ページから、いくつかの教育プログラムを掲載していますが、他にも支援団体の専門性を生かした様々なプログラムがあります。

- 大学生から高校生活についての話を聞き、自分の高校生活の目標を考えて発表する。
- 将来の生活コストについて、カードゲーム形式のワークでシミュレーションすることで、将来の働き方について考える。
- 何人かの社会人にインタビューする中で、仕事に向かう思いや、やりがい等を聞き、社会人のキャッチコピーをグループで考え、発表する。

実施前には、学校の目的や要望を確認するとともに、当日のプログラムの内容と進行について相談するための打合せを行います。クラス数や生徒の様子に合わせて団体がプログラムをカスタマイズし、実施校に合わせた内容で実施しています。



*地域教育推進ネットワーク東京都協議会とは
学校と、企業・大学・NPO等とのネットワークをつくり、子供たちに豊かで、多様な体験学習活動が提供できるようにサポートし、活性化していく仕組みづくりを目指して、平成17年8月に東京都教育委員会が設立しました。

ネットワーク 東京都 検索

キャリア教育とは ?

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てる
ことを通じて、キャリア発達を促す教育

★キャリア教育を通して育成することが期待される「基礎的・汎用的能力」

分野や職種に関わらず、社会的・職業的に自立するための必要な基礎となる能力

人間関係形成・社会形成能力

例) 他者の個性を理解する力、コミュニケーション・スキル、リーダーシップなど

課題対応能力

例) 情報の理解・選択・処理、課題発見、計画立案、実行力など

自己理解・自己管理能力

例) 自己の役割の理解、自己の動機づけ、忍耐力、主体的行動など

キャリアプランニング能力

例) 学ぶこと・働くことの目的・意義の理解、生き方の多様性の理解、将来設計など

平成23年1月 中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」より



クエストエデュケーション 企業探求プログラム

支援団体 株式会社 教育と探求社

授業時間 14コマ以上

【プログラムのねらい】

- ・企業の活動を体験することで、職業観・勤労観について意識する。
- ・チームで課題解決することで、人の役に立つことや課題解決の喜びを知る。



【特徴】

このプログラムでは、生徒は実在する企業におけるインターンシップを教室で体験します。回数が必要となるプログラムですが、実在する企業の課題について当事者意識を持ってじっくりと取り組むことで、生徒たちは企業が社会の中で果たす役割について、経済の仕組みについて、そして働くことについて考え学んでいきます。また、チームで話し合い、プレゼンテーションをつくる中で、発言すること、意見をまとめること、他人へ説明すること、役割を分担して期限までに作り上げることなど、実社会で必要となる様々な力を養うことができます。

プログラムの流れ

① オリエンテーション

このプログラムの内容説明と、6社を紹介する映像を見て、自分がエントリーする企業を決める。

平成26年度協賛企業 H.I.S.、オムロン、クレディセゾン、スカパーJ-SAT、大和ハウス工業、テーブルマーク

② 同じ企業にエントリーしたメンバーでチームをつくる。



③ 新人研修に取り組む。

新人研修の例 『H.I.Sを探せ！』

H.I.S.は、国内280店舗のほか、海外55カ国116都市168拠点を持ち、世界の人々に快適な旅を提供しています。その他にも、航空会社・ホテル・テーマパークなど多角的に事業を展開しています。みなさんの周りにある、いろいろな「H.I.S.」を、10種類以上探してきてください。

④ ミッションを受け取る。

ミッションの例 :

- 私たちにとっての“減災”とは？人が天変地異と共に生する全世界注目のプロジェクトを提案せよ！〈大和ハウス工業〉
- まだ誰も気づいていない課題を発見しオムロンの技術を駆使した解決策を提案せよ！〈オムロン〉

⑤ 企画会議を開く。

ブレインストーミングの方法を学び、企画案を話し合う。

⑥ 企画案を決定し、中間報告をする。

他のチームの内容を評価し合い、企画案をさらに良いものにするヒントを得る。

⑦ プランをつくる。

⑧ プрезентーションを作成する。

模造紙、紙芝居、寸劇、プレゼンテーションソフトなど、形式は様々

⑨ プрезентーションを行う。

全国大会

学年全体にクラス代表が最終報告を行って学校代表を決め、クエストカップ全国大会にエントリーする学校もあります。

平成25年度のクエストカップ全国大会には、全国から1254作品の応募がありましたが、事前審査を勝ち抜いた都立高校の2チームも参加しました。



生徒の感想

- ミッションを聞いた時は、何をどうしたら良いかわからなかった。チームでいろいろ調べて相談していく中で、どんどん面白くなってきた。
- 発表はうまくできなかっただけれども、自分に足りない力がわかったので、高校生活でできることから頑張ろうと思う。

支援者の声 ■ 株式会社 教育と探求社 代表取締役社長 宮地 勘司さん

今、社会はこれまでにないような早さで変わろうとしています。これは、ITの進化とグローバル経済の進展がもたらしたもので、後戻りのできない変化です。このような時代を生きていく子供たちは、単に今ある社会に適合するのではなく、未来を拓き、自ら新たに社会を生み出していく力を身に付ける必要があります。これは、企業人、起業家、エンジニア、公務員、どのような仕事に就くとしても欠くことのできない力です。予め用意された正解を当てるのではなく、自ら正解を生み出す力。これを育むのが「探求」という学び方です。「探求」の最初にあるのは、生徒自身の関心と意欲。大人の押し付けではなく、彼ら自身が踏み出す一歩。そしてその一歩こそが未来の大きな歩へつながるのです。

「職業人へのインタビュー」ワークショップ

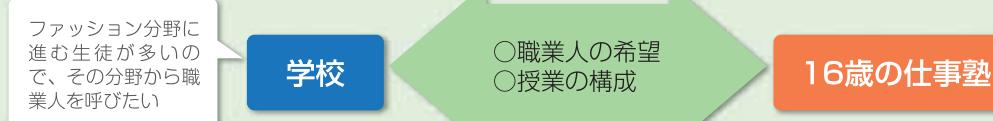
支援団体 NPO 法人 16 歳の仕事塾 授業時間 2 コマ

【プログラムのねらい】

- 高校生活や仕事について考える
- 職業人へのインタビューを通して、職業人自身の高校生時代の話や職業を選んだきっかけ、仕事をする上で大切なことを知り、生徒は自らの将来を考えるヒントを得る。
- 人から話を引き出す「コミュニケーションスキル」を学ぶ
- インタビューの仕方を学ぶことで、見知らぬ他人や異世代との会話の仕方、話の聞き出し方を学ぶ。

プログラムの流れ

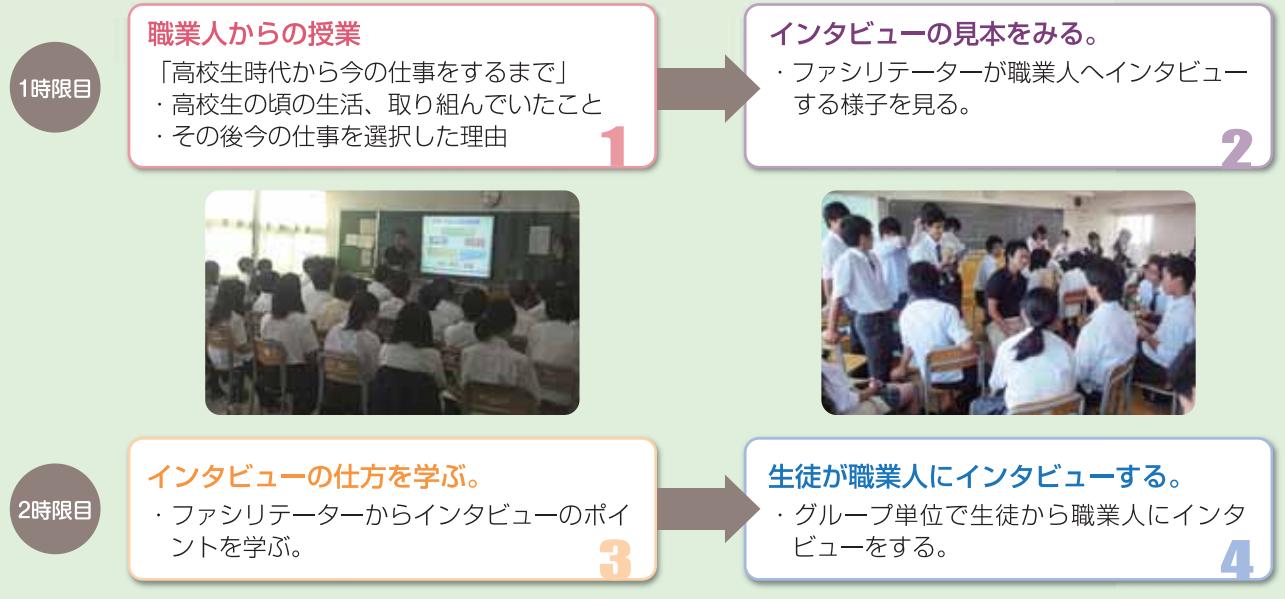
① 「学校」と「NPO法人 16 歳の仕事塾」の打合せ



職業人等の人選・授業内容を学校の希望に応じて、カスタマイズ

② 授業実施例

※各クラスに職業人とファシリテーターの2名を配置して進行



【都立高校での導入】

平成 26 年度は、8 校の都立高校で、1 学年を中心に各学期に導入されています。

支援者 の声 ■ NPO 法人 16 歳の仕事塾 理事長 堀部 伸二さん

このプログラムは職業人とファシリテーターの二人で授業を進めます。職業人は学校のご要望に応じて、グローバルに活躍している人からクリエイターまで様々です。授業の後半、職業人に対して生徒たちがグループでインタビューすることにより、職業人本人に興味を持ち、将来を考えるきっかけやヒントを得られ、更に大人とのコミュニケーションの練習にもなっています。ファシリテーターが丁寧に生徒の職業への質問を促し、質問のよかつた点をコメントすることで生徒は自信を持ち、先生も驚くほど積極的に質問をします。「うちの生徒が、こんなにも興味を持って職業人にいろんな質問ができるとは思わなかった。」という先生の声を数多くいただいている。このワークショップでの体験が、仕事に興味を持ってもらうと同時に、近い将来では進路での面接・インターンシップなどで、また実際に社会に出たときは異世代との、そしてこれからは外国人とのコミュニケーションの機会に生かされることを願っています。



からだで感じる「コミュニケーションワークショップ」

支援団体 NPO 法人 ドラマケーション普及センター 授業時間 6~12コマ

【プログラムのねらい】

- 役者経験者を中心とした講師陣による演劇の手法を用いた様々なワークショップを実施
- 自己理解・他者理解を深める
- 自己表現力・積極性を高める

コミュニケーション能力の向上

プログラムの流れ

① 「学校」と「NPO 法人 ドラマケーション普及センター」の打合せ

生徒には○○の力を身に付けてもらいたい。
その部分を重点的に取り組みたい。

学校

クラス替え直後で生徒が
ワークができるか不安…

共有

○プログラムの目的
○生徒の様子
○学校の教育目標
○授業の構成

ドrama プロセス
普及センター

授業内容を学校の希望に応じて、カスタマイズ

② 授業実施例

(1) 導入部

講義「コミュニケーションの必要性」、「会社が求める人材とは」（初回のみ 10~20 分）

(2) ワーク (2コマ×3~6回)

①自己認知・他者理解

- からだを通じて、自分・他者に気付いていく。
- 感性（五感）を刺激し、「やる気」を喚起する。



②コミュニケーション力を高める

- 自分の気持ちを相手に伝え、相手の気持ちを受け取る。



③人前に出る積極性を身に付ける

- 簡単な表現遊びにより、周りから見られることに慣れ、表現の楽しさを知る。



④頭の中で即興的に言葉を紡ぐ

- 相手の話を聞くことの大切さに気付く。
- 自由な発想により、言葉の構成力を高める。

①~④までの各項目で
100種類の
プログラムを
用意

※ワークで培った能力を実践するプログラムとして、以下のプログラムを追加実施できます。
(実施には2コマ×4回以上のワークを終えていることが必要)

(3) 2分間スピーチ

1人ずつ、クラス全員の前で、自分の氏名と課題を2分間話す。



(4) ロールプレイによる模擬面接

【都立高校での導入】

平成 26 年度は、10 校の都立高校で、1・2 学年を中心に、入学時、クラス替え直後や学校行事の前などの時期に導入されています。

支援者 の声 ■ NPO 法人 ドラマケーション普及センター 理事長 三嶋 浩二さん

このプログラムは、コミュニケーション能力・表現力の醸成を目的としています。その方法として身体感覚を伴ったコミュニケーションの経験を積む内容を徹底して行います。プログラム内容は、コミュニケーションゲーム等ですので、誰でも気軽に取り組めます。また、生徒の様子や全体の雰囲気・状態、変容を確認しながらその都度実施する内容を再構成していきます。「からだで感じるコミュニケーションワークショップ」の延長として「模擬面接」を設定することができます。模擬面接では、面接官、受験者、観察者の 3 つの立場を生徒が体験していきます。プログラム導入の事前打ち合わせで、担当の先生だけでなく、多くの先生にもプログラムの主旨などを御理解いただき、生徒と共にプログラムに参加していただければと思います。



校外学習プログラム

支援団体 株式会社テレビ東京

株式会社テレビ東京は、メディアの役割や使命を次世代の子供たちに伝えていくことを重要なCSR活動と位置付け、テレビ局の仕事や放送の仕組みなどについて学ぶことを通じて、「仕事や働くこと」について楽しく考える場を提供しています。小学校5年生から高校生までを対象としていますが、今回は都立武蔵高校附属中学生が体験してきた様子を紹介します。

プログラム紹介

① まず映像で理解——「見る」プログラム 約20分

職場見学に出発する前に、テレビ局の仕事概要や一つのテレビ番組が完成するまでの流れについて、DVDで学習します。



番組製作の流れについて学習中

② 実際に現場を見学——「体験する」プログラム 約60分

テレビ局についての基本的な事柄を学習した後は、いよいよ現場見学です。

美術担当やカメラ担当の方たちが念入りに準備をしている収録開始前のスタジオや、昼のニュース番組の生放送を行う副調整室（サブコントロールルーム）を見学します。生放送中の副調整室では、CMに入るタイミングをはかる人、VTR再生を担当する人、音量の調整をする人、効果音を入れる人、字幕（テロップ）を入れる人——と、それぞれの持ち場ごとに、秒刻みのスケジュールでミスなく仕事をする緊張感を感じることができます。

副調整室見学の後は、カメラマンの控室や、撮影された映像の編集を行う編集室なども見学。「取材・撮影 → 編集 → 放送」という一連の流れをそれぞれ担当する部署を見学する中で、「リレーのバトンをつないでいくように、責任



生放送中の副調整室



収録前のスタジオを見学



口けで使用するカメラを持たせてもらいました

③ 社員の方に質問——「話を聞く」プログラム 約20分

最後は、「見る」「体験する」プログラムを経て疑問に思ったことを、質問する時間です。「生放送中のハプニングは?」「テレビ東京に入社したら、どんな部署に行くのか?」「テレビ局で働くと思ったきっかけは?」など、様々な質問が出されました。

参加した生徒からは、「当たり前に見ているTVの裏側はとても大変だった。」「カメラを持ったり、キャスターとしてニュース原稿を読むなど、普段は絶対できない体験ができる、とてもうれしかった。」「生放送の大変さや裏方の人の大変さを初めて知った。1つの番組ができるまでにたくさんの過程があることに驚いた。」という感想がありました。

支援者の声 ■ 株式会社テレビ東京 総務人事局総務部 内藤 裕一さん 日比野 努さん

テレビ東京の校外学習で案内するのは、観光用の見学コースではなく、生放送直前のスタジオや本番中のサブコントロールルームなど、テレビ東京の社員たちが真剣勝負をしている実際の職場です。そこではテレビ局の仕事のおもしろさや厳しさ、緊張感などを肌で感じることができます。

私たちの活動は小規模ですがその分、「キャリア教育」や「メディアリテラシー」など、学校の狙いにできるだけ細やかに対応したいと考えています。

しっかりと目的意識を持っての訪問をお願いいたします。

H-CAMP ~企業訪問 -CAMP・OPEN- CAMP~

支援団体 株式会社博報堂

博報堂ではCSR活動の一環として、社員一人一人が持っている“伝える力・考える力”を社会に生かすことをテーマに、中高生向けキャリア教育プログラム「H-CAMP」を実施しています。博報堂の仕事について知り、社員の仕事を疑似体験できる機会です。H-CAMPの2つのプログラムを紹介します。

プログラム紹介

【企業訪問-CAMP】

企業訪問の受入れに対応したプログラムです。「博報堂の主な仕事内容」や「博報堂が大切に考えていること」などの話を伺い、その後に講師の方と対話しながら、いくつかの課題の解決方法を考えます。職場フローの見学はできませんが、仕事について理解し、アイデアを出すワークショップなどを通じて、「働くこと」「個性を磨くこと」について考えることができます。

生徒が訪問した時は、CSR担当の方から博報堂についての説明を聞き、二つの課題について2、3人のグループで話し合い、発表しました。社員の方々の本業以外の活動紹介もあり、生徒たちからは、「一つのCMがどのように作られるかわかった。とても多くの人が協力してCMを作っていることに驚いた。」「アイデアを出すのが楽しかった。」「仕事で個性を生かすって、考えたこともなかった。」等の感想がありました。



【OPEN-CAMP】

「粒ぞろいより、粒違い」これは、博報堂の人材育成方針です。この粒違いの個性豊かな社員の方々が講師となり、中高生がアイデアを出し合うプログラムが「OPEN-CAMP」。週末を中心に年に10回以上開催され、毎回違う講師の仕事内容を疑似体験する、というものです。

プログラムは、博報堂の紹介と、講師の仕事についての説明から始まりますが、初めて出会った参加者同士でグループとなり、それぞれの考えを出し合って、より良い内容にブラッシュアップして発表します。テーマや進め方は講師によって様々ですが、会場の本社会議室（会議室と言っても、カラフルな椅子とテーブルがある部屋です。）で、楽しみながら体験ができます。



H-CAMPについては、以下のHPの中で随時紹介、参加者を募集しています。
<http://www.hakuhodo.co.jp/h-camp/>

平成26年度のテーマから

■ 常識をぶっこわす「文化祭」をデザインしてみよう！ 講師：コンサルタント

■ 「夢を叶える一歩」を踏み出す、 自分だけのキャッチコピーをつくろう！ 講師：コピーライター／コミュニケーションデザイナー

■ 自分が伝わるキャラクターをつくってみよう！ 講師：アートディレクター

■ 好きなCMをヒントに、社会派広告をつくろう！ 講師：ソーシャルクリエイティブプロデューサー

支援者 ■ 株式会社博報堂 広報室 CSRグループ 大木 浩士さん

ビジネスの世界・大人の社会には、「様々な課題」があります。しかもそれには「正解」というものがないかもしれません。

博報堂は、アイデアや発想力を生かして、企業や社会の課題解決を行っている会社です。アイデアや発想力の源泉は「社員の個性」になります。金太郎飴のような人材からは、同じ発想しか生まれません。一方、粒違いの個性豊かな社員からは、斬新で魅力的なアイデアがたくさん生まれます。

次代を担う子供たちは、未来の課題解決者になっていく方々です。そんな子供たちが自分の個性の可能性に気付き、粒違いな課題解決者になっていくきっかけを作りたい、この思いが「OPEN-CAMP」を始めたきっかけです。

“困った”をハッピーに変えるプランニング授業

支援団体 一般社団法人キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会 授業時間 10時間以上(2コマ連続×5回以上)

【団体の概要】

キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会は、キャリア教育コーディネーターの活動を促進するとともに、キャリア教育に関心のある人、企業、団体等、学校、行政機関等とのネットワークをつくり、多様な学びの機会を創出することを目的としている団体です。

【特徴】

今回紹介する教育プログラムは、チームでビジネスプランなどの提案を行うのですが、学校と相談しながら、到達目標やテーマを決めて内容をつくりていきます。社会・企業の求める具体的なテーマに対して、情報収集（マーケティングリサーチ）を行うことで、自ら課題を発見する力を養うとともに、チームで一つの課題に取り組むことで、多様な他者と協働する力を養います。

実施したプログラムの例

A高校の例

- ねらい（身に付けたい力）
相手の立場に立て考え、分かりやすく伝える力
- ミッション
学校・先生の「困った」を解決するプランナーになろう
- テーマ
「A高校の良さを、中学生や地域のみなさんに、もっともっと知ってほしい。学校をPRするポスターを作ってください。」

- ①企画・マーケティングの視点を学ぶ。
(ゲスト講師授業)
- ②PRに向けての課題を探る。
マーケティングの視点を活用して、PRの課題と学校の良さを探る。
- ③広告の作り方、PR方法を学ぶ。(ゲスト講師授業)
広告を構成する要素について学び、ポスターのレイアウトを作る。
- ④広告（ポスター）を作る。
- ⑤プレゼンテーション
ポスターを校内に貼り、全校生徒が投票する。
- ⑥振り返り

B高校の例 (NPO法人プラストビートと共同実施)

- ねらい
リアルな社会の課題と向き合うことで、身边に存在する社会課題を発見し、解決のために自らが貢献できることに気付く。
- ミッション
「2020年東京オリンピックで日本に来るたくさんの外国人がハッピーになるビジネスを提案してください。」

- ①オリエンテーション、ミッションを確認する。
- ②日本に来た外国人にどのようなニーズがあるかの調査
- ③調査結果を確認し、ビジネスプランを考える。
テストマーケティングとしてまわりの人アンケートやヒアリングを行う。
- ④ビジネスプランをブラッシュアップし、プレゼンテーションの準備
- ⑤プレゼンテーションの練習
クラス内で発表し、投票して相互に評価する。
- ⑥最終プレゼンテーション、振り返り
ゲストの社会人から評価をもらう。



支援者の声

一般社団法人キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会 キャリア教育コーディネーター 松倉由紀さん

企画立案を行うプログラムは、生徒も楽しんで活動できますが、「おもしろかった。」で終わってしまう可能性もあります。大切なのは、これらの体験を通してどのような気付きを得てほしいのか、先生の持つ願いをお聞きし、目標を共有すること。その学校の生徒にどのような学びが必要なのか、外部にいるコーディネーターにはわからないことがたくさんあります。地域・産業界という「学習素材」を、効果的に生かすにはどうしたらいいか、先生方と協力しながらより良い授業を作ることができたらと考えています。

企業・NPOによる教育プログラム

このようなテーマのプログラムもあります

将来設計を考える ライフプランニング授業

支援団体 ソニー生命保険株式会社 授業時間 2コマ連続



ライフプランナーが講師となり、生徒全員で、30歳の家族を想定しながら、そのライフプランを作成します。

結果は年度別収支や金融資産残高のグラフで「見える化」されます。多くのケース、最初は大赤字になった生涯の収支結果をどのように改善するかをグループで話し合います。大切なのは、あきらめずに工夫すること。本当に必要なものは何かを話し合いながら、車を買う年代を変える、働き方を考えるなど、工夫することでグラフの赤字が少なくなります。子どもの進学費用も収支を変える大きな要素であることがわかり、「教育費がこんなにかかるなんて、初めて知った。感謝の気持ちが強くなった。」という感想も出てきます。

事前に学校と打ち合わせを行い、内容や進め方について相談しながらプログラムをアレンジしていますので、学校の希望に応じて、ライフプランナーから、自分の高校時代やライフプランナーとして働く楽しさについて、話を聞くこともできます。

模擬裁判員裁判 体験授業 ~人を裁くってどういうこと?~

支援団体 一般社団法人リーガルパーク 授業時間 50分×3～4コマ×1回



一般市民が刑事裁判に参加する「裁判員制度」が始まってから今年で6年。若手弁護士で構成するリーガルパークが提供する本物さながらの模擬裁判で、実際に「裁判員」を体験することができます。将来、裁判員に選任された場合の心構えとともに、裁判や刑罰の意義、現代の社会問題について、また、「正義や公正」「法やルール・きまり」について考えるきっかけとすることができます。



事前講義で、弁護士による刑事手続きと事件概要の説明を受けた後に、リーガルパークスタッフが

演出する模擬裁判で、現場の緊張感や一連の刑事手続きを体感。学生は裁判員として被告人や証人へ質問できます。その後にグループに分かれ評議し、グループごとに判決を発表します。会場は國學院大學法廷教室を利用できるほか学校内の視聴覚室などで実施可能です。また、学校の希望に応じて、検察官・弁護人体験型の模擬裁判もできます。

地域教育推進ネットワーク東京都協議会の会員企業と一緒に、ノベルティグッズを開発

ハーゲンダッツジャパン株式会社

ハーゲンダッツと都立千早高校が「マーケティング」の授業の一環として、ノベルティグッズの開発プログラムを実施しました。開発したのは「修学旅行などでハーゲンダッツの企業訪問プログラムを受ける中高生への記念品」です。

5月から始まった授業では、ハーゲンダッツがお客様とお約束している「期待を超える歓び」という理念の説明を受けました。その後、理念を踏まえた上でアイディア出しを行い、生徒たちから「金色のスプーン」という企画が提案されました。

スプーンが完成したのは11月。最終講義では、新潟県燕市の工場での手作業をしている写真や完成までのプロセスを聞き、一つのスプーンができるまでの多くの方との「関わり」と「思い」を知ることができました。

